株式会社マートワン　会社概要

Marketing Management Planning and Control

MART ONE

● 株式会社マートワン

● 代表取締役　酒井　実

● 資本金　1000 万円

● 設立　1992 年 11 月 26 日

● 所在地：
〒556-0017　大阪市浪速区湊町 2-1-34
電話　06/6636-8068
FAX　06/6626-2130

● ウェブサイト
http://www.martone.co.jp/
http://www.genkipolitan.com/
http://www.okanoue-udon.com/
http://www.bidders.co.jp/user/9390845

● 会社目的
経営コンサルタント業務
経営における人材の育成に関する事業
人材育成及び能力開発のための研修
人材育成及び能力開発のための各種教材の製作並びに販売
人材育成及び能力開発のための情報収集並びに提供
人材育成及び能力開発のための出版物の製作並びに提供
能力チスト、適性チストの研究開発に関する事業
履示会、研修旅行等のイベント企画運営
店告代理業
食品などの通信販売事業及び開発事業
冨務用機器、用晶の販売及びリースｉ
一般労働者派遣事業

目標を共有して、行動を共にする。
マートワンのやり方です。

ライフスキル。
つまり世界保健機構（WHO）が日常の様々な問題や要求に対して、
より建設的かつ効果的に対処するための能力と定義づけた 10 の能力・・・・
意思決定能力、問題解決能力、創造的思考、批判的思考、コミュニケーション能力、
人間関係の構築と維持能力、自己認識、共感する能力、感情を制御する能力、緊張とストレスに対処する能力
・・・を自然に身につけるようにプログラムします。

マートワンは、これまで様々なビジネス・シーンに関わりながら、
はっきりと分かっていることがあります。
ビジネスの成功も失敗も、その最大の共通した課題は「人間観」にあると・・・。

そこではきわめて個人的な偏った判断が起こっています。
だからこそ人間なんだということもできます。
矛盾だらけの人間が合理性を求められる現代のかたちでビジネスに関わり、
最大の成果をあげることは、ある意味とっても矛盾したことです。
だからこそ矛盾を解決することこそが、人が幸福になるために必要条件だと考えます。
なぜならビズネスの成功は、ライフスキルの獲得そのものだからです。

マートワンは、その矛盾を突き破る方法として「Agari-Biz」を提案します。

「Agari-Biz」は、１週間単位の目標設定、計画策定をベースに展開。
短期の研修やセミナーではなく、日々の業務そのものでの目標達成です。

「Agari-Biz」の基本理念は仕事は愛です。
マートワンが現場で身体を使って働いて実感した思いです。
人が幸福になる仕事の仕方がある。だからこそ仕事が楽しい。目標達成は楽しい。

震えるような感動を共感しませんか。

agari

個人を対象とした目標達成支援サービスです。

「勇気があったら飛べるのに」
・・・そう思ったことはありませんか？

自分の夢や希望が叶うといいな。
自分の望む仕事がしたい。外国で働きたい。
あるいは、「好きな人から好きだよ」って言われたい。それもそのひとつ。

みんなから認められたい。自分の存在価値を感じたい。
人から必要とされたい。
自己実現の形はいろいろ。

私たちは「社会に暮らし、そこで自分を認めてもらい、自分の夢を実現したい」

で、その社会はどうなっているのかっていうと。
格差社会と、しきりにテレビでいうけれど、どうなんでしょう。

何についてもラベルを貼るのは勝手だけど、現実は河の流れに似て、動き続け変わり続けている。
だから、願望だけで留まっていないで、動いてみましょう。

自分を夢の河に投げ込んで流れていきましょう、
自己実現の空に飛ばして、ここから遥かな場所に渡っていきましょう。

あなたは自分という飛行機を持っています。
でもエンジンが回らない。あの空の向こうまで飛んで行けそうに思えない。

そんなとき、誰かが飛行機を押してくれたら・・・
空から墜ちそうになったときに、レスキュー隊がすぐに来てくれたら・・・・
ゲンキポリタンがその役をします。

どこに飛んで行くのか。それはあなたが決めること。
そこでなにをするのか、それはあなたが決めること。

ゲンキポリタンは、あなたが飛ぶこと、飛び続けるサポートに専念します。
ゲンキポリタンは、あなたの「飛びたい」を「飛んでいる」に変えます。

どのようにして？

目標を共有します。
スケジュールをプランニングしていただきます。
その実行で起こってくる「できない」「しない」サポートします。
「できない」「しない」を体験することによって、
「私にもできる」という実感をもっていただくようにします。

詳しくは http://www.genkipolitan.com/agari/ をご覧ください。

WEB

法人向け・個人向け・消費者向け
「人を大事にする」をポリシーにウェブサイトを展開

http://www.martone.co.jp/
http://www.genkipolitan.com/
http://www okanoue-udon com/
http://www.bidders.co.jp/user/9390845

自社サイト運営

PC/ ケータイ
ウェブサイト制作
ウェブサイト運営代行

メルマガ制作

スタッフ派遣

運営コンサルティング

SOHO コンサルティング
SOHO スペース設計施工
パソコン・メンテナンス

マートワンが考える「なぜ働くのか？」

たとえば、求人に際して「誰かいないか」という言い方は、他の誰でもいいニュアンスを含んでいます。
「こんな人はいないか」という言い方には、他の誰でもが容易に身代わりできないニュアンスがあります。

このように、求人する側の姿勢に、人に対する想いの違いがあります。
その違いは、自分たちの仕事の仕方そのものなのです。

そして、その違いは、仕事を通して採用した側に必ず跳ね返ってきます。
すべての結果は、自分たちの選択した仕事の仕方、つまり行動によってのみ、もたらされるからです。

私たちは競争のど真ん中にいます。
誰でもできる仕事であるなら、その程度です。
その程度のことでいいなら、その’程度ですまさない相手を競争したら、負けるのは当たり前です。
敗北という結果は、「誰かいないか」という人によってもたらされ、
勝利の結果は「こんな人はいないか」という人によってもたらされます。

たとえそれが誰でもできることであっても、それではいけないとして、誰でもができない領域を求めるのが「けんか腰」です。
そんなことできないとムキになるのは「逃げ腰」です。
競争中に逃げたら終わりです。競争になりません。

どんなふうに競争するのか、目に見えないけれどルールがあります。
立つ位置でルールは違ってみえます。
邪道も正当化できます。王道も邪道になります。
ですから、市場では入り乱れて、なにがどうなのか分らなくなったりもします。

そんなときは「原点回帰」です。
その原点の解釈も人によって様々です。

そんなときは、人間を観ましょう。
人間は「あなたは大切で存在している価値がある」というメッセージを、いつも求めているものです。
それが満たされないと、元気がなくなり、心も身体もおかしくなります。

生産者も消費者も同じで、すべての商品もサービスをそれを満たすためにあります。
だから人間を粗末にするようなメッセージを発信する生産者は、いつかその報いを受けます。

なぜなら自分の誇りをなくした者に自律心は宿らないからです。
それは隠しようのないもので、元気のない烏合の衆を創りだします。
当たり前のように自律心に無関心な人が許される世界が作られます。

「誰かいないか」という求人態度と「こんなもんでいいでしょ」という姿勢は同じところから発信されたものなのです。
商品やサービスを手にする人の存在を否定しているもので、人を軽くあつかうメッセージに他なりません。
こうしたメッセージを受けるほど人はダメージを受けます。
とくに幼児期のダメージは明白で、早期に麻痺してしまいます。
「おなかを空かしているようだけど」「あれでも食べさせておけば」
この空気は、・・・・「誰かいないか」とよく似ていますね。
こんなメッセージには、誰だってダメージを受けます。
私たちはこうして自分と周りの人を疎外しているのです。

現代は、人々が自分の仕事を通して、自分たち自身を傷つけ、目に見えないボディーブローを効かせ合う悪循環が、長く重ねられている気がしてなりません。

その一方で、丁寧に時間と心がこめられ仕事があります。
仕事の仕方、つまり働き方が違います。
注目したいのは、それら優れた仕事が彼らにとって、他の誰にも肩代わりできない「自分の仕事」になっている点です。
それは、自律心との格闘によってなし得たものです。
たとえばイチローや玉三郎の仕事、彼らの仕事に「こんなもんでいいでしょ」という力の出し惜しみや、これで一丁あがりという姿勢は見当たりません。

彼らの仕事に触れると、私たちは嬉しそうな表情をします。
なぜでしょう？
それは、彼らの働き方に、人を大事にする姿を感じるからではないでしょうか？

そして、これがもっとも重要なことなのですが.....、
力の出し惜しみをしないことが、まっすぐに人の幸福につながっているという事実です。

「誰でもいいから儲かるようにやってくれたらいい（テキトーにやってくれたらいい）」という姿勢は人を不幸にし滅ぼし、会社を滅ぼします。
反対に、力の出し惜しみは許さない、しない、させない、つまり人を幸福にするという強い意志とメッセージを含んだ会社は残って行きます。
なぜならそれこそが、すべての人が求めてやまない存在価値の確認そのものだからです。

でも人はそれに気がついている人は少ないのです。
それを気づかせることが私たちの仕事といえます。
「こんなもんでいいでしょ」ではなく、出し惜しみしないことによって伝わります。
求人とは、その入口であり、人材育成はそのプロセスです。

その土台には、いつも大きなテーマがあります。
「なぜ、働くのか？」
なぜ働くのでしょうか？
この世界は一人一人の小さな「仕事」の累積で成り立っているからです。

結果とはいつも行動によってもたらされた結果です。
結果としての仕事に「働き方そのもの」が含まれるのなら、「働き方」が変わることから、私たちの暮らす世界が変わる可能性があるのではないでしょうか？

多くの人が「自分」を疎外して働いた結果、それを手にした人をも疎外する社会が出来上がります。
それは、逆の成果も同じ構造で生み出すこともできるということです。
よくなる構造も悪くなる構造も構造そのものが違うわけではなく、働き方の違いなのです。

仕事中の自分の存在価値は、力の出し惜しみがない働き方によってのみ認められます。
当人にとっては自分を忘れた状態です。無我夢中の状態です。
つまり、自分の価値に云々することは、力の出し惜しみ状態にあると思って違いないと言えます。
ですから、自分の価値を認めてくれと要求したとき、概ね逆の評価しか受けられないのは、そういう理由からです。
仕事をしているときは、自分の存在価値より、お客さまの存在価値を優先し、自分も生活者になったときに存在価値を大切にしてくれる企業や店を選ぶようにすれば、私たちの暮らす世界は変わっていきます。
世界がより人を大事にする方向へ変わる方法はどこか違った場所や国会議事堂にあるわけではなく、私たち一人一人の手許にあるのです。

「誰かいないか」ではなく、「こんな人はいないか」と訊ねます。
あなたにとって「こんな人」は、どんな人でしょうか？
そして、「こんな人はいないか」と訊ねるあなたは「どんな人」でしょうか？

（マートワン・セミナーより抜粋）